

驕らず、謙虚に、 親身に、人に易しく

厚生連長岡中央総合病院 北澤 勝
(平成二十年卒)



卒業、国家試験合格おめでとうございませう。長岡中央総合病院糖尿病センターの北澤勝です。平成二十年に新潟大学を卒業。平成二十二年に当時の第一内科に入局し、内分必・代謝内科として今年で六年目となります。病院のスタッフ、指導医、患者さんに恵まれ充実した日々を送っています。これから一緒に働く皆さんを心より歓迎します。

四月よりそれぞれ、臨床研修に励むことになると思います。日々の仕事を充実させるため、アドバイスを贈ります。浅い経験からの偉そうな話となりますが、参考になれば幸いです。

国家試験をクリアした皆さんは、『先生』となり、今後あらゆる所で煽てられます。最初はくすぐったい『先生』ですが、いつしかそれを当然と思ってしまう。『先生』と呼んでくれる他のスタッフは、皆さんが知らない専門課程をクリアし、多くの技術を持っています。それぞれの仕事での協力があって、初めて医師の仕事が成り立ちます。患者さんは多くの経験を積んできた人生の先輩です。『先生』として決して驕らず、謙虚に医師としての仕事に向かして下さい。

私が診る生活習慣病の患者さんのほとんどが六十才以上です。皆さんのご両親とほぼ同年代でしょうか。私の父も今年還暦を迎えます。想像して下さい。あなたの父親は『先生』に丁寧

入局宣言は入部宣言!?

立川総合病院 横山 侑輔
(平成二十二年卒)



六年間の学生生活、各種試験、卒試、国試という関門を乗り越え、今春から医師としての道を歩み始める皆さん、おめでとうございませう。これから初期研修を経て自らの適性を判断し、専門とする科を決めることとなります。

僭越ですが自分の事を少しだけお話しさせていただきます。自分は二年間の初期研修を新潟大学歯学部総合病院で行い、いわゆるたすき掛けで長岡の立川総合病院を、地域研修で佐渡の両津病院を選択し、研修させて頂きました。初期研修を開始した頃は所属したい専門科をはっきり決めておらず、外科系コースを選択し、自分の興味のある科を回りました。最終的には研修二年目の十一月に新潟大学耳鼻咽

卒業生のみなさんへ

新潟市民病院 丸山 馨
(平成二十五年卒)



ご卒業おめでとうございます。国家試験、本当にお疲れ様でした。国家試験後の日々を思い出すと、旅行をして最後の学生生活を楽しまつとも四月からの研修生活が不安でもあり楽しみでもありました。

二年間の研修医生活を終える今、その当時思い描いていたような豊富な知識と確かな技術を持ち合わせた医師には程遠いですが、周囲の方のおかげで今後成長できる方法をいくつかつかみかけていると思います。

一つ目は、患者さんのところへ行き、訴えを傾聴し、なんらかの対処をすぐにするこ

一つ一つの縁を大切に

鶴岡市立荘内病院 飯田 倫理
(平成二十四年卒)



ご卒業おめでとうございます。医師国家試験を終え、新年度から始まる新たな生活に期待と不安を抱きながら、残りわずかの学生生活を満喫されていることと思います。学生生活はいかがだったでしょうか。おそらくあつあつという間に過ぎていってしまったのではないのでしょうか。皆さんの大半が新年度から初期研修を始めることとなると、思いが

一緒に頑張りましょう

県立新発田病院 米山 晋太郎
(平成二十六年卒)



まだ寒空が続くものの、暖かい春に近づいていくことを桜の蕾を観ながら感じられるいい季節です。皆さま、卒業おめでとうございませう。ほんの一年前まで私も国家試験に追われながら無事卒業し、四月からの研修医生活を想像し心躍らせていました。

現在、私は新発田病院での研修がはじまり、楽しく元気な研修仲間と充実した日々を過ごしています。何かの参考になればと思います。私の研修生活の一部を記させていただきます。

新発田病院での研修の魅力の一つである救急外来について書かせてもらいます。当院での当直は基本的には研修医・内科・外科医の三人で行います。一次患者から三次患者まで、自家用車で行く方から救急搬送される方、新生児から高齢者まで、様々な患者がやってきます。一部の例外を除き、研修医がファーストタッチをさせたいと考えています。そのため診断までのアプローチで一番大事な病歴聴取、身体診察は数多くの症例を経験しながら身につけることが大切です。そしてそこから上がった鑑別疾患を基に上級医にコンサルトしながら検査を組み合わせ、結果を評価し初期治療を開始していただきます。

編集後記

私は卒業してもう二十八年になります。年寄は「昔は良かった」とかいうのが普通なものでしょうが、私は昔のことでもっとああすればよかったとかいうことはあっても、あんな頃に居るのだけはゴメンです。今号の記事で昔とはいろいろ変わったんだという事はよくわかりました。しかし、人生の若い頃が大変なのはどうせいつの時代も変わらないものでしょう。卒業した皆さん、きつと、これからいろいろあることでしょう。でも、それも人生ですよ。(古泉)